

23日 木曜

テモテ I

2:1 そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。

2:2 それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。2:3 そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。

2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。

2:5 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。

2:6 キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。

2:7 そのあかしのために、私は宣伝者また使徒に任じられ・・・私は真実を言っており、うそは言いません。・・・信仰と真理を異邦人に教える教師とされました。

2:8 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもできよい手を上げて祈るようにしなさい。

2:9 同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の間とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、2:10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。2:11 女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。

2:12 私は、女が教えたり男を支配したりする



ことを許しません。ただ、静かにしていなさい。

2:13 アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。

2:14 また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。

2:15 しかし、女が慎みをもって、信仰と愛と聖さを保つなら、子を産むことによって救われます。

「すべての人が救われて、真理を知ようになる」ために、私たちは祈る必要があります。「王」などこの世を動かす人々のためにも祈るべきです。それは彼らが真理を知っているからではなく、真理を知ようになるために祈るということです。

ですから賛成できないような政府のためにも、尊敬できないような上司のや経営者のためにも祈るということです。彼らに「怒ったり言い争ったりする」のではなく、祈るのです。

男女の違いもまた気をつける必要があります。特に男性は争うことをしやすいので、気をつけるようにしなさいということでしょう。

女性は安心かというところでもなく、「女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。」とありますから、男性と同じく自戒しなさいということです。

「子を産むことによって救われます。」とは解釈が難解な部分ですが、これはエバの実例から語っているようです。エバはまさに子を産むことで「神が...与えてくださった。」とその恵みを再認識しました。もちろん出産の経験のない女性も、また男性も、救われるのですが、女性の傾向としてはそのような人が多いということです。

男性も女性も、それぞれの特質を感謝し活かしつつも、その弱さや短所を謙遜に知って、救いを完成する人格へと変えられて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

